

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32658

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26350365

研究課題名(和文) 明治大正期に遡る一次資料「事業場長必携」を用いた東洋捕鯨の操業復元

研究課題名(英文) Description of the operation of Toyo Hogeï Co. with in-house document "
Jocho-hikkei"

研究代表者

宇仁 義和 (Uni, Yoshikazu)

東京農業大学・生物産業学部・准教授

研究者番号：00439895

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の近代捕鯨の沿岸時代について、東洋捕鯨の社内文書や株主総会資料、同時代の写真などから明らかにした。国内の事業場と捕鯨船の8割を得た東洋捕鯨は、黄海と千島に事業場を新設し事業を拡大し、事業場の一体運用や役割分担が見られ、人員と捕鯨船を通年で効率的に運用したことが史料的に裏付けられた。捕鯨船によっては年度内に台湾から北海道の網走、黄海へと回航していた。ノルウェー人砲手の着業は1930年代初めに終わり、その割合は朝鮮では高く、本州や北海道では低かった。シロナガスクジラとナガスクジラの呼称は、東洋捕鯨の社内名称が定着したものである。

研究成果の概要(英文)：The coastal era of modern whaling in Japan was described with the in-house documents of Toyo Hogeï (Oriental Whaling Co.), business reports for the stockholder general meeting, and photographs at that time. Toyo Hogeï, which have 80% of whaling stations and whaling boats, expanded the fishing operation by establishing new whaling stations in the Yellow Sea and the Kuril Islands. It was proved with the evidence in historical documents that the company was able to make fishing operation efficiently in whaling boats and workers through the year with integrated operations and role sharing in some stations. A whaling vessel voyaged from Taiwan to Abashiri in Hokkaido and the Yellow Sea during a year. The work of Norwegian gunners ended in the early 1930s, the proportion of which was high in Korea and low in Honshu and Hokkaido. The standard Japanese names of blue and fin whales were established from the in-house name of Toyo Hogeï.

研究分野：科学史・技術史、博物館学

キーワード：近代捕鯨 朝鮮 千島 ノルウェー 樺太 台湾

1. 研究開始当初の背景

明治大正期から戦前の近代捕鯨の沿岸時代に関する人文的研究は、操業実態が不明なままに進められてきた。捕鯨船名、捕獲の公式統計は存在するものの、操業の様子を伝える一次資料が得られなかったことを要因とする。捕獲器具の開発史は別にして、福本和夫 1960『日本捕鯨史話』から山下涉登 2004『捕鯨』に至るまで、明治大正期の捕鯨の操業実態については、明石喜一編 1910『本邦の諾威式捕鯨誌』に依拠し、不足分は雑誌記事を用いており、一次資料を用いた研究は見られない。事業場の場所や捕獲統計については笠原昊 1950「日本近海の捕鯨業とその資源」が全貌を伝えているものの、事業場別の集計はされていない。また、公式統計を用いたものであり、当然に予想される実際の捕獲状況は不明なままである。日本の近代捕鯨の沿岸期の研究は、航海日誌や契約書類を資料とする 18-9 世紀のアメリカ捕鯨、鯨組の文書を使用した近世の西海捕鯨の研究、初めから監督官が乗船した南極海の母船式捕鯨に比べ、史料に恵まれず実証性に欠ける状況であった。

一方、既存の研究が資料としたのは文書であり、図面や写真を多数用いて事業場や捕鯨船、操業の実態を視覚的に現した報告は国内には見られない。例外は、アメリカのロイ・チャップマン・アンドリュース Roy Chapman Andrews による『Whale Hunting with Gun and Camera』（1916）や関連の報告である。彼が写真は入手済みであったので、それを用いた視覚的な捕鯨事業の解説が可能と考えた。

2. 研究の目的

20 世紀初頭から約半世紀にわたる、日本の近代捕鯨の沿岸時代の操業実態について、社内文書や株主総会資料、役所への提出文書、同時代の写真を用いて実証的に明らかにすることである。対象地域には、当時の統治地域である朝鮮や台湾、千島や樺太を含む。朝鮮と千島は沿岸捕鯨の最重要地域でもあった。具体的には次の 5 項目である。1) 近代捕鯨初期の操業実態：各事業場の沿革、捕鯨船の稼働状況と事業場間の回航、2) 就労者と技術移転：ノルウェー人砲手の異動と日本人への移行、朝鮮人や台湾人の就労状況、3) 捕獲実績と資源状態：種別捕獲数と捕獲状況、資源状態の認識、4) 地元対策：外来企業が地域に受容されるための寄付や儀礼行為、社会関係の構築、5) 解説書の作成：事業場所在地の個別課題や社会史研究のための基礎資料の提供。

3. 研究の方法

1) 必携」の解説：鯨類の生態調査や調査捕鯨の経験を踏まえた解釈やデータ化、図表・統計・地図などの視覚資料の作成、2) 比較資料の収集と検討：公式統計・調査報告

書や研究論文・地元資料の収集、既存文献の視覚資料化（図表化や地図へのプロット）、3) 現地調査：事業場と周辺の地理的調査と関係者や子孫からの聞き取り、4) 写真と映像資料の検索の 4 つである。

4. 研究成果

沿岸捕鯨の操業の実際として、各事業場の沿革、種別月別捕獲数、着業捕鯨船など資料が得られた。20 世紀初頭のシロナガスクジラの捕獲数は、既存の報告よりも相当に多かった。ノルウェー人砲手の存在は、東洋捕鯨 1 社で最低のべ 40 名以上が着業していた。その割合は事業場で異なり、朝鮮では高く、本州や北海道では低かった。主力事業場の鮎川では、1910 年代半ばから 50%未満であり、従来の記事よりも日本人砲手が早くから多数を占めていた。操業海域は、当初の漁場が不漁になると遠方にまで広げ捕獲数を確保していた。とりわけ黄海では事業場から 80-100 海里まで航海していた。

進出先の関係では、地元漁業者に反対運動が起こり、事業場の移転をしたことが高知県甲浦などでも見られた。その一方、北海道の一部や千島では歓迎される例も見られ、進出先との関係は、網取り捕鯨の有無、漁業の成績などいくつかの要因により異なった傾向が見られた。多くの事業場で小学校や神社への定期的な寄付や有力者への挨拶などを行っていた。各地で見られた鯨の下顎骨の門柱もその一貫と考える。

解説書の作成では、当初予定していた社内文書「場長必携」の復刻や写真版の作成は個人情報で予想以上に多く含まれるため断念した。鮎川事業場や周辺の写真について、社内文書や役所への提出文書から事業所名や施設名を特定した。

現在に残る事業場の遺構として、台湾事業場の引揚棧橋や樺太事業場の可能性が高い柵のほか、黄海の大黒山島事業場の跡地が鯨公園として整備されていることがわかった。千島の事業場では、その所在地が現在は鯨や捕鯨に関係するロシア語地名になっている。

ノルウェーのアーカイブに、20 世紀初頭の朝鮮海捕鯨の写真が保存されていることが判明し、被写体が長生浦（蔚山）事業場や長箭湾と金剛山、長崎の世界遺産「小菅船修場」であることを特定した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

1 Uni, Y. 2017. Modern whaling in the Kuril Islands: focus on Iturup Island and Shikotan Island. Vestnik of Sakhalin Museum, 24: 00-00. 査読有（投稿中）

2 宇仁義和・加藤幸治編. 2017. ロイ・チ

ヤップマン・アンドリュースの鯨類調査-鮎川 1910 年. 東北学院大学論集歴史と文化, 55: 43-179. 査読無

3 宇仁義和. 2017. ロイ・チャップマン・アンドリュースの鯨類調査と東洋捕鯨鮎川事業場. 宇仁・加藤編. 2017, pp55-67. 査読無

4 加藤幸治・宇仁義和・成澤正博. 2017. 写真引き 100 年前の鮎川のすがた. 宇仁・加藤編. 2017, pp69-96. 査読無

5 宇仁義和. 2017. 千島の近代捕鯨一択捉島と色丹島を中心に. 根室市歴史と自然の資料館紀要, 29: 31-44. 査読無

6 宇仁義和. 2016. 東洋捕鯨樺太事業場跡を探して. セトケンニューズレター, 37: 6-7. 日本セトロロジー研究会. 長崎. 査読無

7 宇仁義和. 2016. 韓国の鯨事情 現地報告とネット情報. セトケンニューズレター, 36: 6-7. 日本セトロロジー研究会. 長崎. 査読無

8 宇仁義和. 2016. 社内文書に見る東洋捕鯨の事業場. 下関鯨類研究室報告, 4: 12-35. 査読無

9 宇仁義和. 2016. 日本の近代鯨類学草創期における東洋捕鯨とアンドリュースの影響. 日本セトロロジー研究, 26: 17-25. 査読有

10 宇仁義和. 2015. ロイ・チャップマン・アンドリュースの鯨類調査と下関-東洋捕鯨の蔚山事業場における捕鯨事業を中心として. 下関鯨類研究室報告, 3: 15-27. 査読無

11 宇仁義和・谷田部明子・石川創. 2015. NHK アーカイブス保存映像の中の鯨類ストラランディング. 日本セトロロジー研究, 25: 1-6. 査読有

〔学会発表〕(計 4 件)

1 宇仁義和. 2016. 10. 2 捕鯨の記憶の現代化. 日本民俗学会第 68 回年会. 千葉商科大学 (千葉県・市川市). 口頭発表. 口頭発表.

2 宇仁義和・石川創. 2016. 6. 26 黄海のナガスクジラ: 回遊と個体群状態の推定. 日本海セトロロジー研究会第 27 回大会. 長岡市寺泊文化センター (新潟県・長岡市). 口頭発表.

3 宇仁義和. 2015. 7. 19 東洋捕鯨に見る初期の近代捕鯨の操業形態. 日本海セトロロジー研究会第 26 回大会. あきた白神体験センター (秋田県・八峰町). 口頭発表.

4 宇仁義和・谷田部明子・大隅清治. 2014. 5. 25 NHK アーカイブス保存映像の鯨類ストラランディング記録. 日本海セトロロジー研究会第 25 回大会. 愛媛大学 (愛媛県・松山市). 口頭発表.

〔図書〕(計 5 件)

1 加藤幸治・宇仁義和監修. 2016. くじら探検記-よみがえる 100 年前の古写真帖-. 東北学院大学博物館. 仙台. 14pp.

2 朴ヘリン・宇仁義和. 2016. ロイ・チャップマン・アンドリュース アジア探検日本

編. 長生浦鯨博物館, 蔚山. 183pp. (韓国語)

3 宇仁義和. ロイ・チャップマン・アンドリュースが見た 1910 年の日本. 朴ヘリン・宇仁義和. 2016, pp125-139. (韓国語: 和文原稿の翻訳)

4 朴ヘリン・宇仁義和. 2015. ロイ・チャップマン・アンドリュース 朝鮮での足跡. 長生浦鯨博物館, 蔚山. 199pp. (韓国語)

5 宇仁義和. 2015. アンドリュースの朝鮮半島での鯨類調査と探検. 朴ヘリン・宇仁義和. 2015, pp129-135. (韓国語: 和文原稿の翻訳)

〔産業財産権〕

なし
○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕(計 7 件)

ホームページ等

1 ノルウェー国ベストフォル県アーカイブ「日本からの協力: 古い写真が同定された」
HJELP FRA JAPAN - GAMLE FOTOGRAFIER IDENTIFISERT
<http://www.vestfoldarkivet.no/hjelp-fra-japan-gamle-fotografier-identifisert/>

2 ノルウェー国ベストフォル博物館機構「日本からの協力: 古い写真が同定された」
Hjelp fra Japan - gamle fotografier identifisert
<http://samlingsforvaltningen.vestfoldmuseene.no/hvalfangstmotiver-fotografert-av-kaptein-og-reder-h-g-melsom/>

3 ノルウェー国ベストフォル博物館機構「メルソム・ガラスネガ (乾板) コレクション」
The Melsom Glass Negative Collection
http://samlingsforvaltningen.vestfoldmuseene.no/files/2017/05/norge_images_rev.pdf
展示

4 2015. 5-7 月 写真展: ロイ・チャップマ

ン・アンドリュース朝鮮半島での足取り. 長生浦鯨博物館. 韓国蔚山広域市
5 2016.5-7月 写真展:ロイ・チャップマン・アンドリュースのアジア探検日本編. 長生浦鯨博物館. 韓国蔚山広域市
6 2016.8月 第11回文化財レスキュー企画展くじら探検記. 宮城県石巻市復興まちづくり情報交流館・牡鹿館. 東北学院大学博物館.
7 宇仁義和. 2015.10.15 網走の近代捕鯨100年史-捕鯨の町で科学する-網走市民大学第40期第6講座. 網走市民大学. 網走. (招待講演)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇仁 義和 (Uni, Yoshikazu)
東京農業大学・生物産業学部・嘱託准教授
研究者番号: 00439895

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

櫻木 晋一 (Sakuragi, Shinnich)
下関市立大学・経済学部・教授
研究者番号: 00259681
岸本 充弘 (Kishimoto, Mitsuhiro)
下関市立大学・経済学部・研究員
研究者番号: 50520219
田島 佳也 (Tajima, Yoshiya)
神奈川大学・経済学部・教授
研究者番号: 40201610
谷本 晃久 (Tanimoto, Akihisa)
北海道大学・文学部・准教授
研究者番号: 20306525

(4) 研究協力者

石川 創 (Ishikawa Hajime)
下関海洋科学アカデミー・鯨類研究室・室長